



血液がん 2023年12月版

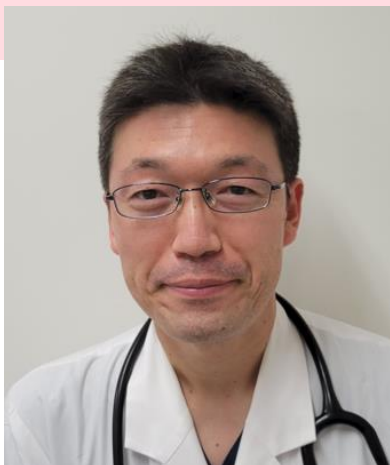
Oncologist Fact Report

血液がん治療医の治療状況と情報収集レポート

医師編

株式会社メディカルトリビューン

Hematologic malignancy '23



都立駒込病院 血液内科 医長 名島悠峰 先生

わが国における血液がんの罹患数は高齢化に伴い増加しており¹⁾、この傾向は今後も継続すると予測されています。一方、新たな治療戦略の導入による予後改善への努力は絶え間なく続いており、血液がん診療は日々発展しています。多発性骨髄腫に対する新たなCAR-T細胞療法、新規分子標的薬の承認、既存の分子標的薬の適応拡大などもあり、2023年には「造血器腫瘍診療ガイドライン」が3年ぶりに改訂されて、疾患によっては治療アルゴリズムの見直しも行われています²⁾。

本レポートは、白血病、悪性リンパ種および多発性骨髄腫に対する診療の現状について、血液内科・腫瘍内科の先生方を対象に調査しその結果をまとめたものです。主要な薬剤の処方実態に加え、処方意向や満足度から各薬剤への期待値についてもみています。白血病や悪性リンパ種では近年新薬の上市や適応拡大が続いており、これらの処方状況や実臨床への影響が注目されます。多発性骨髄腫においては近年登場した抗体薬の普及度も明らかとなりました。前述の改訂ガイドラインの遵守状況も調査されており、今日の血液がん診療のありようについて臨床現場での実践に即した情報が凝縮されていると感じます。

本年は医師調査と患者調査で共通の質問を設定し、医師および患者間での意識ギャップについての興味深い比較分析も行われています。なかでも医師による治療説明の内容や質に対する認識に両者間で差があるという調査結果は、私たち医師にとっても重要な課題として受け止めるべきでしょう。薬物療法における認識の比較からは、治療を進める上で患者さんと医師が相互理解を深める必要性を改めて再認識いたしました。

血液がんの患者さんひとりひとりに最適な医療を提供するには、医療従事者と伴走する企業の皆さんの支援が不可欠です。本レポートが各企業の持てる力を最大限に発揮するための一助となれば幸いです。

1) 国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ. がん種別統計情報

2) 日本血液学会 造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版序文

目次

1	本サービスご提供の背景・肺がんに関するレポートに取り組む背景	4
	調査概要	7
2	● 回答者属性	10
3	エグゼクティブサマリー	18
	調査結果詳細	
	● 第1部：血液がんの治療実態	
	- 4-1：白血病の治療薬／開発品の認知状況	28
	- 4-2：悪性リンパ腫の治療薬／開発品の認知状況	51
	- 4-3：多発性骨髄腫の治療薬／開発品の認知状況	83
	- 4-4：チーム医療／治療方針	96
	● 第2部：血液がんを診療する医師の情報収集実態	
	- 4-5：専門領域の情報入手経路	114
	- 4-6：タッチポイントジャーニー	123
	- 4-7：MR／メディカル部門担当者／オンラインMR評価	234
	- 4-8：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察	244

調査概要

調査 対象者条件

1. 血液内科、腫瘍内科、血液・腫瘍科、血液・腫瘍内科のいずれかに該当する病院勤務医
2. 直近1年間に血液がんの患者を1人以上に診療している

標本抽出

Medical Tribune ウェブおよびMT本紙 医師会員

調査手法

WEBアンケート調査、および郵送調査

サンプル数

176ss ※2022年12月版：239ss

調査時期

2023年10月17日～11月15日
※前回調査：2022年10月28日～11月10日

対象薬剤／レジメン

白血病

	製品名	一般名	適応症	発売／適応取得
AML	ソスパタ	ギルテリチニブ	再発または難治性のFLT3遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病	2018年12月
AML	ヴァンフリタ	キザルチニブ	再発または難治性のFLT3-ITD遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病	2019年10月
AML	ヴァンフリタ	キザルチニブ	未治療のFLT3-ITD変異陽性の急性骨髄性白血病	2023年5月
AML	ピダーザ	アザシチジン	急性骨髄性白血病（ベネトクラクス併用）	2021年3月
AML	ベネクレクスタ	ベネトクラクス	急性骨髄性白血病（アザシチジン併用、少量シタラピン併用）	2021年3月
CML	タシグナ	ニロチニブ	慢性期または移行期の慢性骨髄性白血病	2009年3月
CML	スプリセル	ダサチニブ	慢性骨髄性白血病	2009年3月
CML	アイクルシグ	ポナチニブ	前治療薬に抵抗性または不耐容の慢性骨髄性白血病	2016年11月
CML	ボシュリフ	ボスチニブ	慢性骨髄性白血病	2020年6月
CML	セムブリックス	アシミニブ	前治療薬に抵抗性または不耐容の慢性骨髄性白血病	2022年5月
ALL	スプリセル	ダサチニブ	再発又は難治性のフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	2009年3月
ALL	アイクルシグ	ポナチニブ	再発又は難治性のフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	2016年11月
ALL	ベスポンサ	イノツズマブ オゾガマイシン	再発または難治性のCD22陽性の急性リンパ性白血病	2018年4月
ALL	ビーリンサイト	ブリナツモマブ	再発または難治性のB細胞性急性リンパ性白血病	2018年11月
ALL	オンキャスパー	ペグアスバルガーゼ	急性リンパ性白血病	2023年6月
CLL	イムブルピカ	イブルチニブ	慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）	2016年5月
CLL	カルケンス	アカラブルチニブ	慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）	2021年4月
CLL	ガザイバ	オビヌツズマブ	慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）	2022年12月
CLL	ベネクレクスタ	ベネトクラクス	再発または難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）	2019年9月

悪性リンパ腫

	製品名	一般名	適応症	発売／適応取得
FL	タズベリク	タゼメトスタット	再発または難治性のEZH2遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫（標準的な治療が困難な場合に限る）	2021年8月
FL	ガザイバ	オビヌツズマブ	CD20陽性の濾胞性リンパ腫	2018年8月
DLBCL	ポライビー	ポラツズマブ ベドチン	再発または難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	2021年5月
DLBCL	ポライビー	ポラツズマブ ベドチン	未治療のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	2022年8月
DLBCL	エブキンリ	エブコリタマブ	再発性または難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	2023年9月
MCL	ベルケイド	ボルテソミブ	マントル細胞リンパ腫	2015年6月
MCL	イムブルピカ	イブルチニブ	マントル細胞リンパ腫（未治療の場合、ベンダムスチン＋リツキシマブとの併用）	2023年2月
WM/LPL	ベレキシブル	チラブルチニブ	原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫	2020年8月
WM/LPL	ベルケイド	ボルテソミブ	原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫	2018年3月
WM/LPL	イムブルピカ	イブルチニブ	原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫	2022年12月
PCNSL	ベレキシブル	チラブルチニブ	再発または難治性の中枢神経系原発リンパ腫	2020年3月
ATL	エザルミア	パレメトスタット	再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫	2022年12月
ATL・PTCL	ハイヤスタ	ツシジノスタット	再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫・末梢性T細胞リンパ腫	2021年10月
ATL・PTCL	ポテリジオ	モガムリズマブ	CCR4陽性 再発または難治性の末梢性T細胞リンパ腫・再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫	2014年12月
PTCL	アドセトリス	ブレンツキシマブ ベドチン	未治療のCD30陽性の末梢性T細胞リンパ腫	2019年12月
HL	アドセトリス	ブレンツキシマブ ベドチン	CD30陽性のホジキンリンパ腫	2014年4月
HL	オブジーボ	ニボルマブ	再発または難治性の古典的ホジキンリンパ腫	2016年12月
HL	キイトルーダ	ヘムプロリズマブ	再発または難治性の古典的ホジキンリンパ腫	2017年11月

対象薬剤／レジメン

多発性骨髄腫

製品名	一般名	適応症	発売／適応取得
ベルケイド	ボルテソミブ	多発性骨髄腫	2006年12月
カイブロリス	カルフィルゾミブ	再発または難治性の多発性骨髄腫	2016年8月
ニンラーロ	イキサゾミブ	再発または難治性の多発性骨髄腫	2017年5月
ニンラーロ	イキサゾミブ	多発性骨髄腫における維持療法	2020年3月
レブラミド	レナリドミド	多発性骨髄腫	2010年7月
ポマリスト	ポマリドミド	再発または難治性の多発性骨髄腫	2015年5月
サークリサ	イサツキシマブ	再発または難治性の多発性骨髄腫	2020年8月
ダラキューロ	ダラツムマブ・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ	多発性骨髄腫	2021年5月

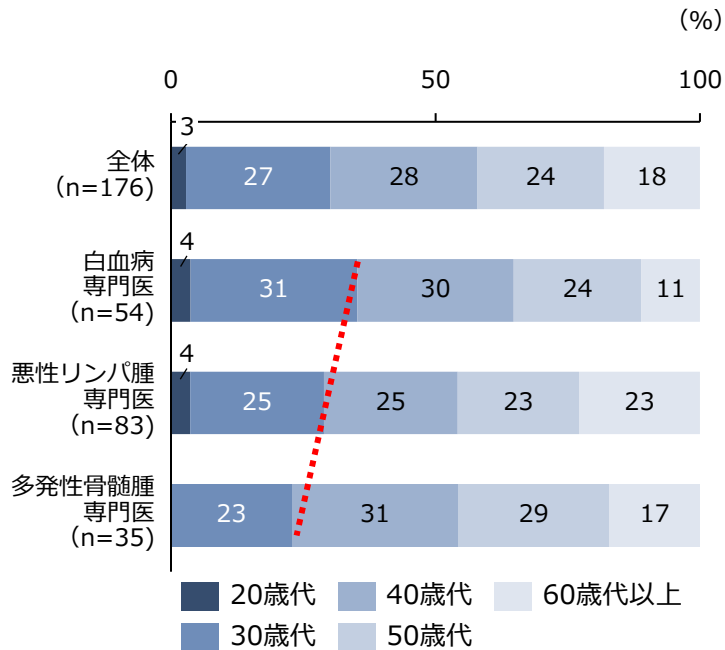
※レポート内で使用する治療薬／レジメンの略語一覧

分類	疾患名	略称
白血病	急性骨髄性白血病	AML
白血病	慢性骨髄性白血病	CML
白血病	急性リンパ性白血病	ALL
白血病	慢性リンパ性白血病	CLL
悪性リンパ腫領域	濾胞性リンパ腫	FL
悪性リンパ腫領域	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	DLBCL
悪性リンパ腫領域	マントル細胞リンパ腫	MCL
悪性リンパ腫領域	原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫	WM/LPL
悪性リンパ腫領域	中枢神経系原発悪性リンパ腫	PCNSL
悪性リンパ腫領域	成人T細胞白血病・リンパ腫	ATL
悪性リンパ腫領域	末梢T細胞リンパ腫	PTCL
悪性リンパ腫領域	皮膚T細胞性リンパ腫	CTCL
悪性リンパ腫領域	ホジキンリンパ腫	HL
多発性骨髄腫	多発性骨髄腫	MM

専門別

- ✓ 白血病専門医は他の群と比べて30歳代が多かった
- ✓ 多発性骨髄腫専門医はSNSの平均使用個数が最も多く、特にLINEとYouTube、X（旧Twitter）の使用率が他の群と比べて多かった

年齢層



プライベートで使用するSNS

n	LINE	Facebook	Instagram	YouTube	X (旧Twitter)	Linkedin	Voicy	Clubhouse	Doximity	メデイカルケアステーション(MCS)	Microsoft Teams	Slack	その他	SNSは使用していない	平均使用個数
全体	70%	26%	22%	37%	27%	3%	1%	0%	1%	1%	10%	5%	1%	22%	3.0個
白血病 専門医	69%	26%	20%	31%	28%	2%	0%	0%	0%	2%	11%	7%	2%	15%	3.0個
悪性リンパ腫 専門医	66%	27%	23%	37%	22%	4%	1%	0%	0%	0%	7%	5%	0%	28%	2.9個
多発性骨髄腫 専門医	80%	23%	20%	46%	37%	6%	0%	0%	3%	0%	14%	3%	0%	17%	3.3個

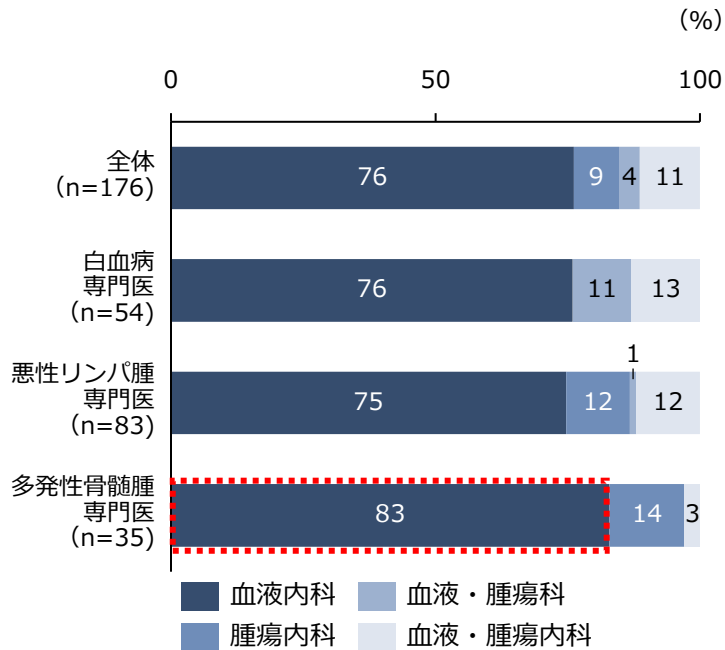
※表側ごとに、Top3に色付け

F2.先生のご年齢（世代）を教えてください。/F7.先生がプライベートで日常的に使用しているSNSについて、当てはまるものを全て選択してください。（MA）

専門別

- ✓ 多発性骨髄腫専門医は血液内科の割合がやや多かった
- ✓ 白血病専門医は他の群と比べて助教の割合がやや多かった

診療科



役職

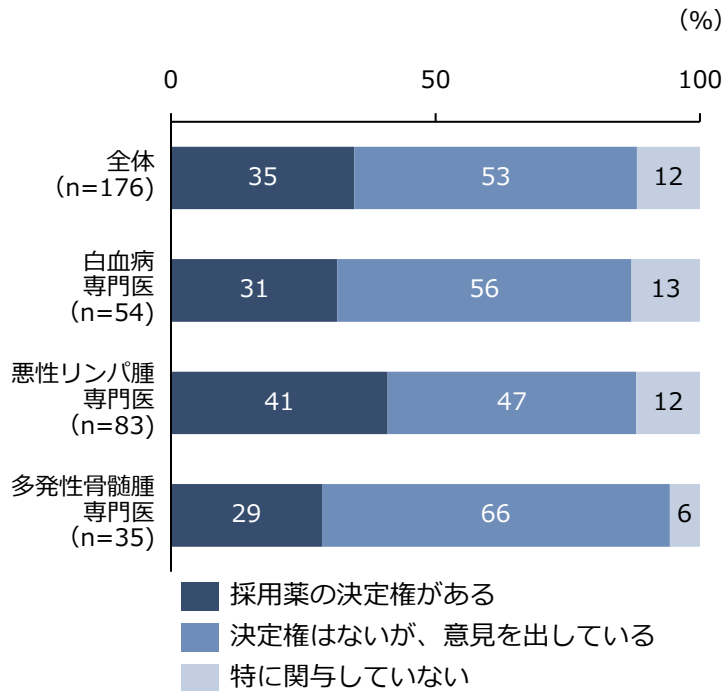
	n	★教授・主任教授	★准教授	★講師	★助教	医局員常勤医(助手)	一般的な大学内・大病院内の 医局員常勤医(助手)	大学院生(博士課程生)	専門研修医	臨床研修医	★病院長・副院長	★診療科長/部長	★医長	医員	その他	★役職あり
全体	176	5%	1%	6%	11%	4%	3%	2%	0%	5%	26%	17%	20%	3%	69%	
白血病 専門医	54	6%	0%	6%	20%	6%	4%	6%	0%	4%	20%	17%	13%	2%	72%	
悪性リンパ腫 専門医	83	5%	0%	7%	6%	4%	4%	0%	0%	4%	31%	19%	23%	0%	70%	
多発性骨髄腫 専門医	35	6%	3%	3%	9%	3%	0%	0%	0%	9%	26%	14%	20%	9%	69%	

※表側ごとに、Top3に色付け

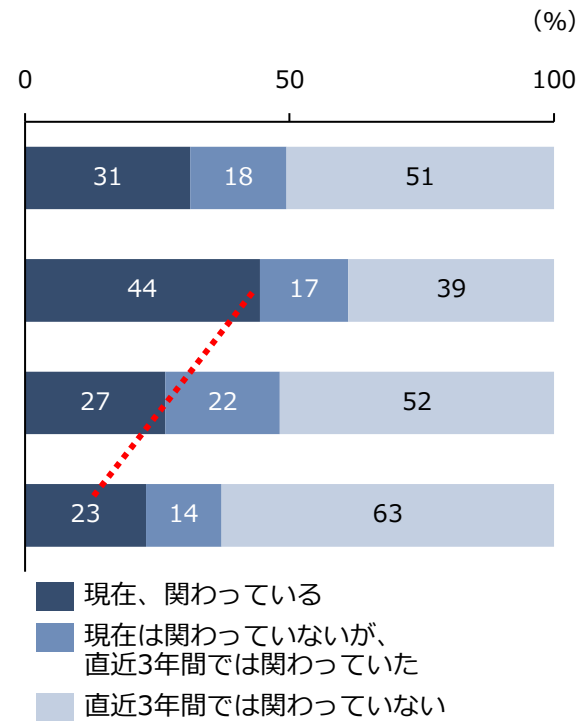
専門別

- ✓ 治験への関与は、白血病専門医は多く、多発性骨髄腫専門医は少なかった
- ✓ 所属・参加学会は、白血病専門医で日本造血・免疫細胞療法学会（JSHCT）が多かった

採用薬への関与



治験への関与



所属・参加学会

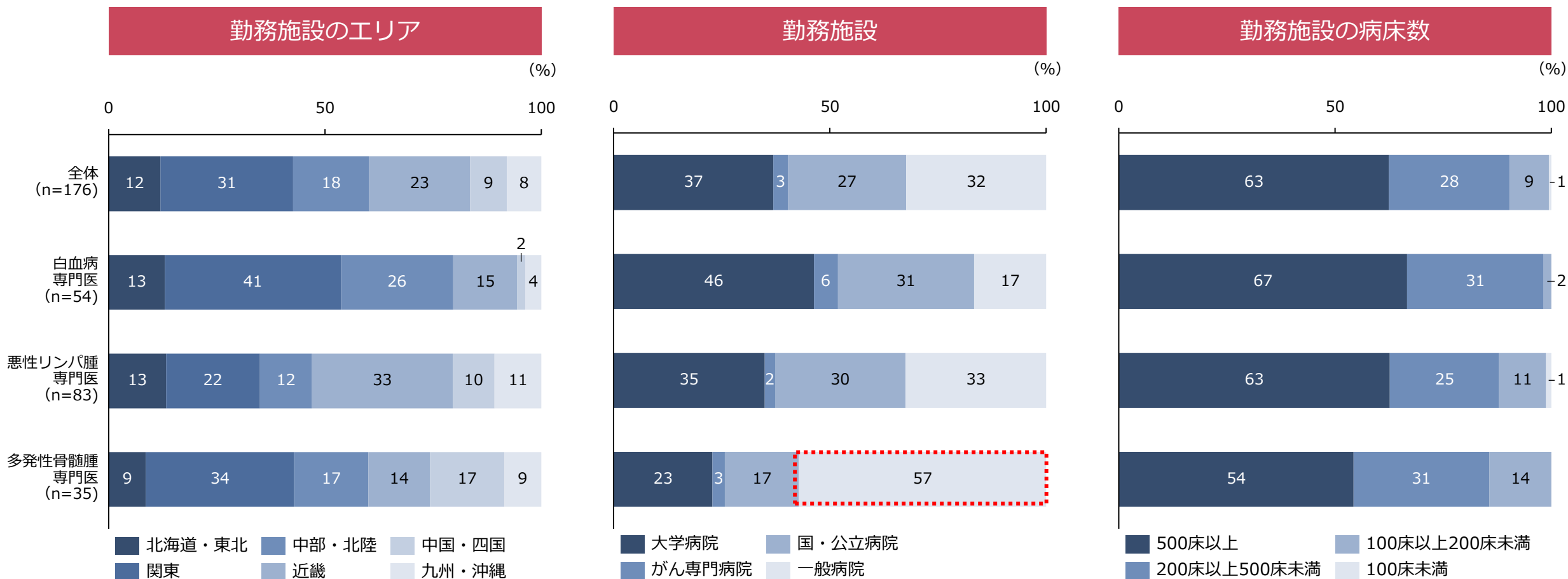
	n	日本血液学会 (JSH)	日本造血・免疫細胞療法学会 (JSHCT)	日本臨床腫瘍学会 (JSMO)	米国血液学会 (ASH)	国際悪性リンパ腫学会 (ICML)	欧州血液学会 (EHA)	米国臨床腫瘍学会 (ASCO)	米がん研究協会 (AACR)	米国移植細胞治療学会 (ASTCT)	その他	いずれもあてはまらない
全体	176	91%	51%	35%	16%	2%	8%	6%	1%	2%	1%	2%
白血病 専門医	54	98%	65%	24%	19%	2%	9%	6%	0%	4%	0%	0%
悪性リンパ腫 専門医	83	86%	46%	41%	13%	2%	5%	8%	1%	1%	1%	5%
多発性骨髄腫 専門医	35	94%	40%	40%	14%	3%	14%	0%	0%	0%	0%	0%

※表側ごとに、Top3に色付け

F4.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。/F5.直近3年間における、血液がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。
F6.先生が所属・参加される学会を全て教えてください。(MA)

専門別

✓ 多発性骨髄腫専門医は一般病院の割合が多かった



F1.先生の主な勤務施設の所在地を教えてください。/SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/SQ3.先生の主な勤務施設の病床数を教えてください。

専門別

- ✓ 血液がんにおける専門領域は悪性リンパ腫が最も多く、白血病、多発性骨髄腫の順番だった
- ✓ CAR-T療法の平均施行患者数は過去、現在ともに白血病専門医が最も多かった

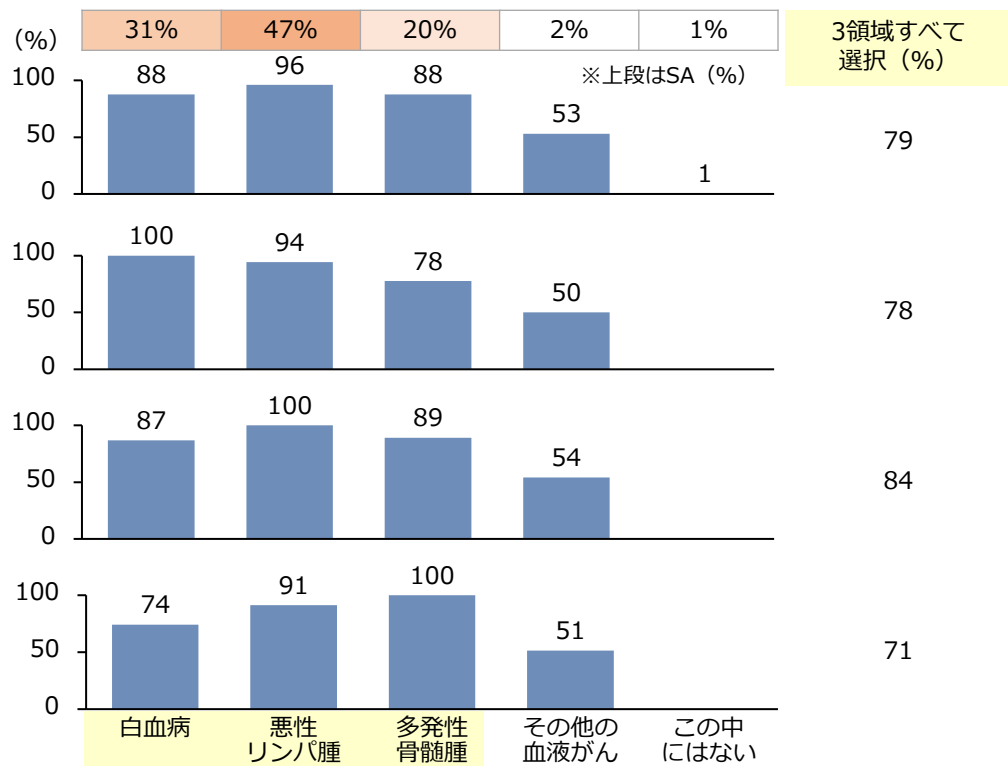
血液がんの専門

全体
(n=176)

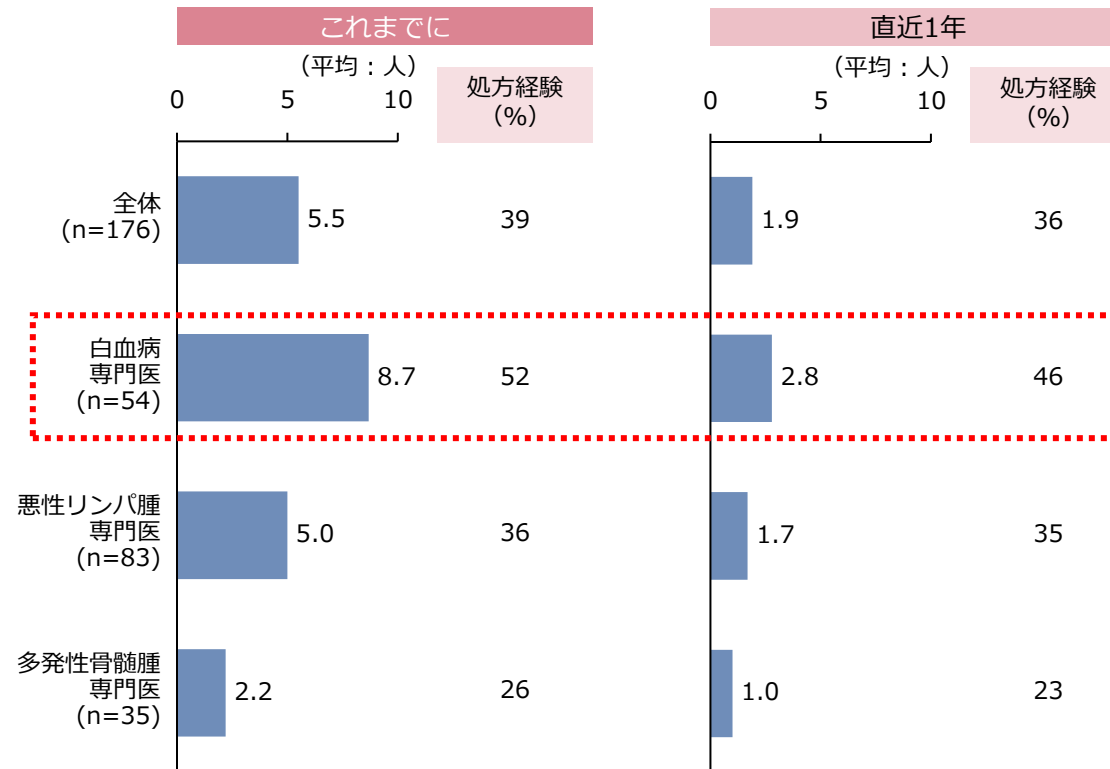
白血病
専門医
(n=54)

悪性リンパ腫
専門医
(n=83)

多発性骨髄腫
専門医
(n=35)



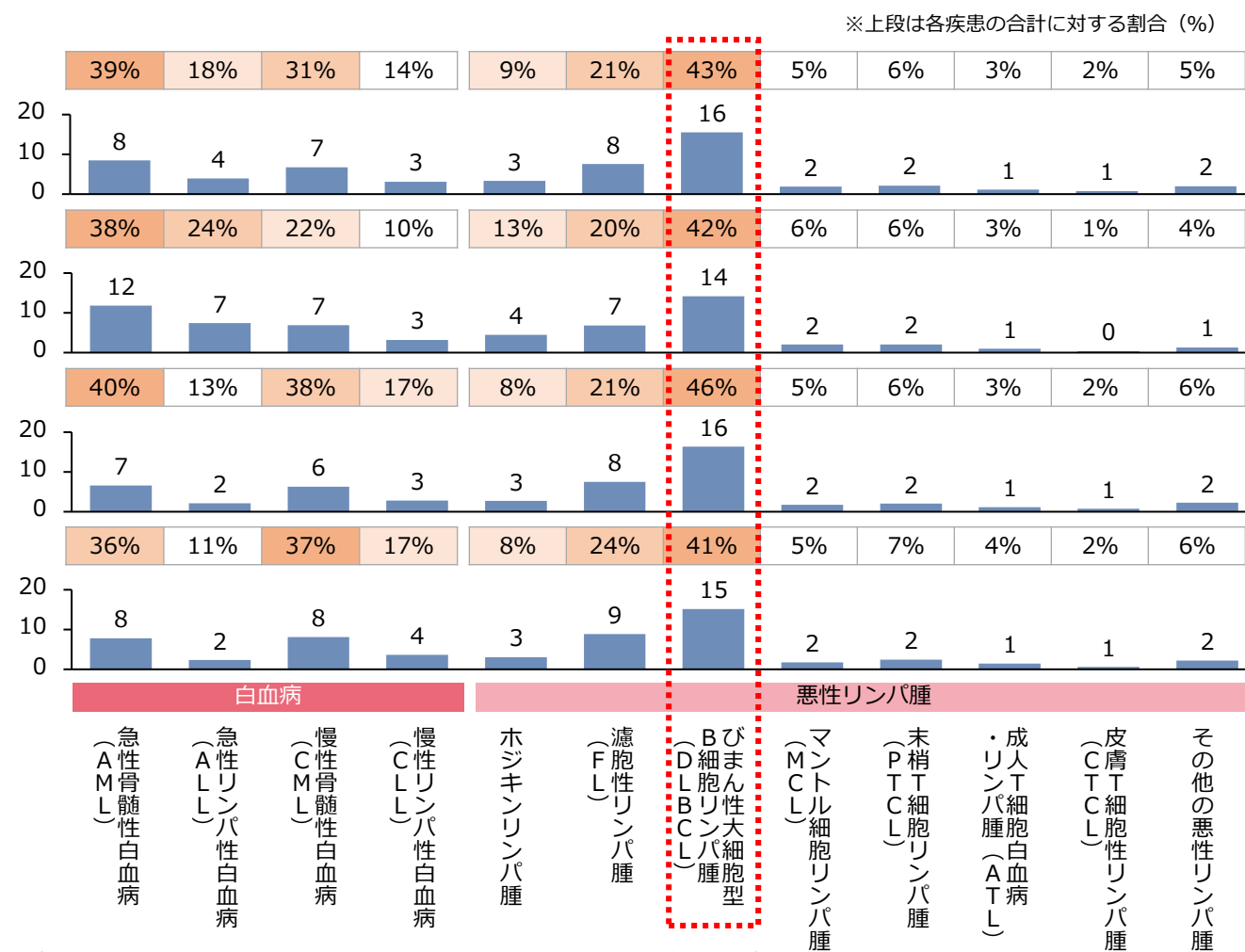
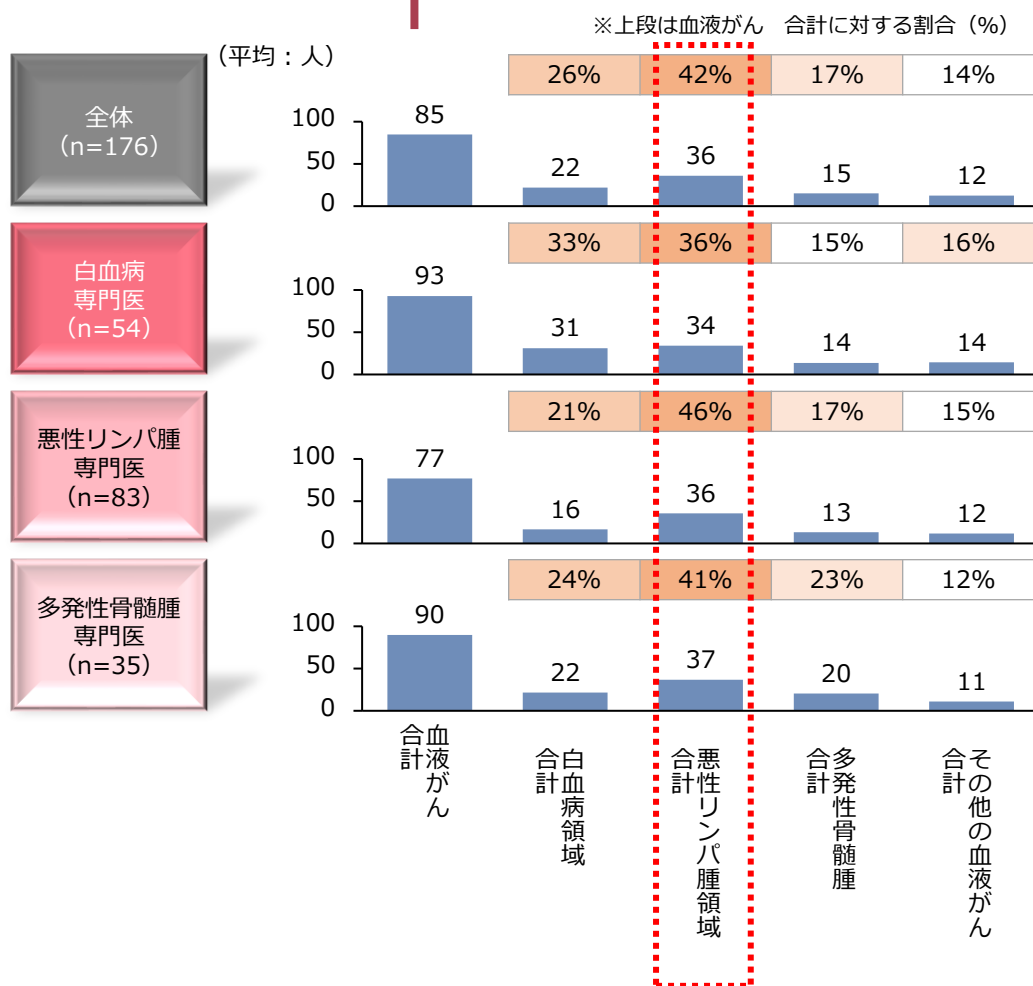
CAR-T療法（治験など含め）を施行した患者数



SQ4. 血液がんにおける、先生のご専門領域を教えてください。(MA/SA) / Q2.先生ご自身がCAR-T療法（治験など含め）を施行した患者数をカルテベースで教えてください。

専門別

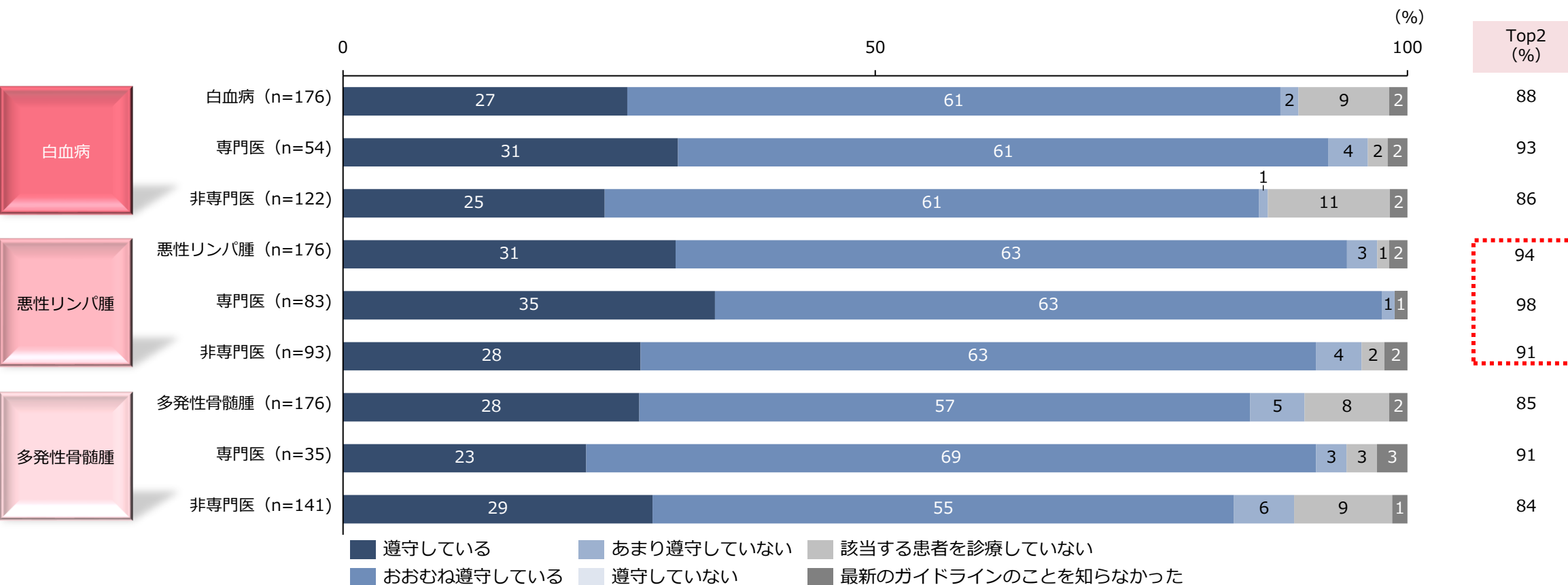
✓ どの群も血液がんの合計患者に占める割合は悪性リンパ腫が最も多く、内訳としてはDLBCLが最も多かった



SQ5.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した血液がんの患者数(概数)をカルテベースで教えてください。/Q1.先生が【直近1年以内】に診療した、以下の疾患の患者数をカルテベースで教えてください。

専門別

- ✓ ガイドラインの遵守率は、TOP2で見ると白血病88%、悪性リンパ腫94%、多発性骨髄腫85%といずれの群も比較的高い数値であった。なかでも悪性リンパ腫は94%で最も高かった



Q0.最新の『造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版』の遵守状況について、最も当てはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。



Oncologist Fact Report

2023年12月版

医療者とともに

MT MEDICAL
TRIBUNE

CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。